

# 俳諧忠臣蔵

## 三輪三郎



### NPO法人忠臣蔵倶楽部

108年の忠臣蔵研究員の実績による監修。  
 元禄事件研究の新たな夜明けです。全て史料に基づく詩集です。  
 詩歌により、赤穂義士の心情が手に取るようにわかります。  
 この一冊で本当の忠臣蔵が浮かび上がって参ります。

一冊 1,400 円、送料 160 円。一冊 160 ページ。  
 (10 冊以上は 11,000 円、送料無料)。  
 郵便局の払込票の通信欄に「俳諧忠臣蔵」と記し、下記へ。  
 発売元中央義士会。

**中央義士会 00130-0-54568**

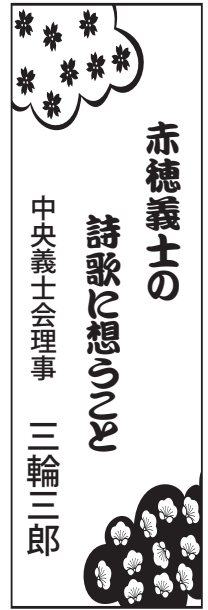
振込を確認次第発送いたします。  
 TEL 048-973-3777 / FAX 048-973-3790



発行人  
 〒104-0052  
 東京都中央区月島3-15-9  
 全義連事務局  
 TEL 048-973-3777  
 編集者 中島康夫

ホームページ  
**忠臣蔵会館**  
 出版・校正・協力  
 テレビ制作協力  
 講演・史跡案内  
<http://www.chuushingura.net/>

平成二十九年度は  
**「年譜忠臣蔵」**  
 の発行を予定しております



中央義士会理事 三輪二郎

昨年夏ごろだったと思いますが、中島理事長から忠臣蔵について何か書いてみないかとのお奨めをいただきました。

私が(財)中央義士会へ入会したのは平成十二年の八月(二〇〇〇年)、ちょうど中島理事が理事長に就任された年であります。

はじめのうちは仕事の関係で中国駐在もありましたが、八十路を越えてからはずっと日本におり、いまでは月一の勉強会をはじめ、恒例の中央義士会の会合などにはほとんど参会し、楽しく勉強させてもらっております。

しかし、いざ本を書くということになると、生来の不勉強もあって、二つ返事で喜んでお受けする訳にはいきませんでした。

改めてのお奨めに、少しは興味のある義士らの詩歌でもまとめようかということになり、お引き受けすることにしました。

以来、この一年間、いわゆる一級史料といわれる元禄赤穂事件の専門書を中心に、義士の詩歌の収集に励みました。収録した詩歌の数は辞世五十首を含めて五百首以上。はじめのうちはどうなることかと思いましたが、中島理事長らのご協力をいただき最近では一冊の本としての体裁もつき、どうやら発刊のめどもつきました。

その本の名前は『俳諧忠臣蔵』とさせていただきますました。

私は昭和の一桁、それもはじめのほうの生まれ

でありまして息災なればあと二、三年で卒寿を迎えることになりませう。いわゆる戦前、戦中の育ちです。

当時は二宮金次郎や忠臣蔵が忠孝の象徴としてもてはやされた時代で、物心ついた時分には忠臣蔵がどんな物語かはそれなりに知っていたつもりでした。

さて今回の本のまとめでこんなことも知りまして。

いろいろな歴史の事件や物語の記録文書はその事象や経緯を時系列的に実に詳しく教えてくれます。それに対し、詩歌というものはある時点の情景や作者の思いを詳しく伝えてくれます。そこには偽りがありません。どのようにとるかはその人の心でもあります。

「詩歌は字で書いた絵である」

川越しもりんと帯して門火哉

大高源五 元禄十年七月十三日 丁丑紀行、大井川川越し広場にて

ふだんならねじり鉢巻きに禪一丁で飛び歩いている川越人足達も、お盆の入りの今宵ばかりは、浴衣にりと帯して迎え火をかこんでいる。そんな姿が煌々と燃え盛かる赤い炎に浮かび上がっているようです。

槿花一朝難開眉

思郷断腹不待夕

大石内蔵助 元禄十六年二月、瑞光院主 海王座への書中、細川邸にて

むくげの花は朝に開き夕にはしぼむ。まことにはかないものである。私は夕を待たずに切腹

して散ってゆくが。故郷のことを思うと、心配がなくてほっとするわけにはゆかない。

家郷の者は、覚悟していることは言いながら、何かにつけて思いわずらい、悲しむことであらう。

浅野大学の処分を受けて、元禄十五年七月二十八日、京都円山の安養寺塔頭重阿弥に大石内蔵助ら上方の同志十九名が集りました。事実上吉良上野介への復讐を決めた会議といわれ、世に円山会議といわれます。

以後同志たちは三々五々江戸に向けて下って行くことになりました。

京都から江戸まではおよそ一三〇里のみちのり、一日十里の徒として半月はかかりませう。

二度と戻ることはないこの上方。いとしい妻や子、親、兄弟を残しての長旅であります。

そんな中で同志たちは多くの詩歌を詠んでいます。

元禄十五年の冬都を立ちて吾妻に下るとて

なきわかれ今朝うち渡る加茂川の

水のけむりはかわに立ちそ

小野寺十内 元禄十五年十月 京都 加茂川にて 義人遺草

という訳で皆様のご協力を得て一冊の冊子ができ上がりましたが、さて皆様に気に入っていただけますでしょうか、いささか心配でもあります。尚、詩歌などに間違いや疑問がございましたら何なりとご指摘いただければ幸いです。

## 討入りがテロとは可笑可笑

中央義士会常務理事 荻原 栄

今年（二〇一六年）の七月一日、バンングラデシュのダッカで、武装集団がレストランを襲撃し、二十名の死者がでるといふ痛ましい事件が発生した。犠牲者のうち七名は日本人である。襲撃されたのは、イスラム過激派とは何も関係の無い一般の人たちで、ただレストランで食事をしていただけなのだ。七名の日本人はバンングラデシュの発展のために働いている人たちであった。

これがテロリズムである。この他にも、イスラム過激派は、イランでもパリでもロンドンでも、世界中でたまたまそこにいた大勢の一般の人々を無差別に殺害している。何度もうかがいがこれがテロリズムなのだ。テロリズムの定義は確定してはいるが、一般的には「非合法的な暴力を使用することによって、一般大衆に恐怖を与え、政治的な目的を達成しようとする行為」とされている。

平成六年の映画「四十七人の刺客」以来、忠臣蔵関係のテレビ番組や世情などで、吉良邸討入りをテロと発言する人物が出てきた。NHKの司会者ですら「あの事件はテロ」と発言しているのが現状である。世の中のテロ事件を見て、吉良邸に討入った大石内蔵助ら四十七人をテロリストにし、おまけに吉良上野介を哀れな年老いた犠牲者にし、事件をテロとすることで、受けを狙ったのであろう。

全くの不見識である。江戸時代、刀を抜いての戦いは非合法ではない。仇討ちも非合法ではない。ま

た、討入りで大衆は恐怖を覚えるどころか、絶賛したのである。その証拠に当時の商人の手紙にも「江戸中の手柄に御座候」とかかかれている。その絶賛が、三一年経った今でも歌舞伎や映画などに続いているのである。さらに大石内蔵助らは、政治目的など微塵ももっていないかった。一番よい証拠が、元禄十五年九月五日に母宛に出した大高源五の手紙である。大高源五はその中で、「殿様の憤りを察して家の恥をすすぐため、忠のために命をすてる。天下に恨みがあるわけではない」といつている。

総じて、討入りをテロと言っている人々に共通の傾向があるように見える。テレビなどに出て、もの知り顔で批判だけする、いわゆる文化人といわれる人たちである。文化人は、意識するかしないかに関わらず、反権力で左翼であるべきだと、これまで思われてきた。しかし、左翼の基本的考え方唯物弁証法であり、事実に基づいて論理的に推論していかねばならないのであるが、忠臣蔵に関しては全く事実を無視している。ある作家は「私の頭にピンとくる啓示があった」といつて、自分の創作で吉良上野介名君説をでっちあげ、これが史実だと主張しているのである。

忠臣蔵は確かに、戦前、国の思想的柱とされ、忠君愛国思想に使われた経緯がある。それが頭の片隅にある人々は、忠臣蔵イコール権力・戦争、と結びつけ、歴史としてみることを止め、思想的にみてしまふのである。以前、横浜市、大佛次郎記念館で行われた講演会に行った際、私の近くで「忠臣蔵は戦争賛成派だ」といつていたお年寄りがいた。これなどその典型である。

歴史で、「事実」とは史料に基づくことである。信頼のある一級史料を基に、それから組み立てていかねばならない。たいていの吉良上野介名君説を唱

える方は、史料を読んでいない。元禄時代の一級史料（日記や手紙の一次史料）に、「吉良上野介は横柄な人で、大名家に行くところにある宝物を持って行ってしまふ」「吉良上野介は人柄が悪く、浅野内匠頭に切られたのは身から出たさびだ」とあつても、不勉強で読んでいないか、無視するのである。さらに、吉良町の郷土史家が黄金堤は、吉良上野介が築いたものではない、と古文書研究の結果を、吉良町発行の資料に発表しても無視しているのである。

また、明治に入つて、明治天皇が使いを泉岳寺に使わし、赤穂義士を顕彰している。これによって、江戸幕府から罪人とされてきた四十七士は、晴れて義士として認められたのである。天皇が賞賛した人々をテロリスト呼ばわりするのは、天皇に対して不敬ではないか。

我々は、現在起きているテロリズムに断固反対するのは当然であるが、史料を読み、正確な忠臣蔵の知識を身につけて、討入りをテロだなどと、決して発言しないように心掛けていかねばならない。

そういえば、余談だが、あの東宝の「四十七人の刺客」放映の節、我々義士会の幹部は東宝本社に呼ばれ、次のようにいわれた。

「今度出来る映画は、義士会の方々が考えているような映画ではないので、その点ご理解下さい」と。その際、当会の元事務局長であった田島一郎氏は「刺客」とは何だ、と発憤して東宝への同行を拒んだ一幕があったことを思い出した。

近年、「外国物忠臣蔵」の映画が二本制作されたが、愚にも付かない不作で、ヒットしなかつたようである。何でも作れば良いというものではない。

忠臣蔵の一編も、知らない監督の作る映画など可笑可笑。

### 第十八回忠臣蔵愛好会の報告

— 待乳山聖天と赤穂義士 —

中央義士会常務理事 萩原 栄

第十八回忠臣蔵愛好会が、平成二十八年十一月六日(日)に開催されました。案内と講師は中島理事長が担当されました。

晴天に恵まれた当日、十三時半に東武線浅草駅前集合。待乳山聖天(まつちやましようでん)で、車による集合者も含め、舟中会議で集まった義士と同じく、合計二十二名が合流しました。

今回は、「待乳山聖天と赤穂義士」を主題にした、青空勉強会です。

待乳山聖天・本龍院は、天台宗の流れをくむ、聖観音宗の寺院で、さらに聖天宮の扁額を掲げてもあり、神仏習合信仰が生きているお寺です。開山は古く、推古天皇の時ともいわれていますが、今は、浅草寺の支院の一つとなっています。

待乳山自体は、赤穂義士とは直接関係はありませんが、裏手には山谷堀があり、こと、隅田川が合流する地点に、待乳山の渡し(竹屋の渡し)がありました。この場所に橋のなかった江戸時代は、人々はここから舟で隅田川を渡っています。また、山谷堀をさかのぼると、吉原があり、ここから舟に乗って通ったともいわれています。

待乳山はその名の通り、小高い山ですが、足のこ不自由な方用に、スロープカーがありますので、容易に上にある本堂まで行くことが出来ます。

その後、山を下りて、待乳山の渡し跡へ行きました。今は、埋め立てられ隅田公園となっていますが、渡しの場所に碑が建っています。



参加者全員集合  
待乳山聖天にて



待乳山聖天での授業風景



舟中会議に参加した、勝田新左衛門の御子孫勝田芳造氏と渡しの場所の碑



待乳山の渡しの場所  
この場所で22名の義士は舟に乗りました

この待乳山の渡しで、元禄十五年八月十二日に、赤穂義士二十二名が集合し、舟中会議を行っていました。

この会合は、隅田川舟中会議として有名で、七月二十八日に京円山での、円山会議で決定した、討入りへのゴーサインを、この会議で堀部安兵衛と潮田又之丞が伝えております。

午後四時、西日が傾いた頃、解散しました。

# 第13回忠臣蔵通2級検定試験問題

## [申込方法]

### ・ 解答用紙の請求

検定試験の受験をご希望の方は、住所、氏名、電話番号、FAX番号並びに、第13回2級検定試験申込と記入した用紙を、下記宛てFAXまたは郵送でお送り下さい。FAXをお持ちの方は、できるだけFAXをお願い致します。また、メールでも受け付けております。折り返し解答用紙をお送り致します。

宛先 〒135-0047 東京都江東区富岡1-17-1-403

NPO法人 忠臣蔵倶楽部

TEL/FAX 03-3630-1927

メール office@chuushingura.jp

### ・ 受験料と振込先

2級の受験料は2000円です。振り込みで受験申込となります。

郵便局の青色の払込取扱票で下記へお振り込みください。

**NPO法人 忠臣蔵倶楽部 00190-0-346038**

払込取扱票の通信欄に「第13回2級試験申し込み」と記入下さい。

複数名を1枚の払込取扱票で申し込まれる場合は、受験者全員のお名前を通信欄に記入下さい。

払込料金をご負担をお願いしております。

## [解答の送付]

- ・ 解答はFAXで下記へお送りください。郵送の場合は、下記の中央義士会事務局へお送りください。メールでは受け付けておりませんのでご注意ください。

FAX 048-973-3790

宛先 〒343-0032 埼玉県越谷市袋山 58-12

中央義士会事務局

- ・ 可否は11月になってからお知らせ致します。

## [注意事項]

- ・ 合格点は80点です。24問以上正解で合格となります。
- ・ ご自宅で資料を調べて解答していただいて結構です。
- ・ 試験問題を調べるために、お電話等で各施設へ直接問い合わせることはおやめ下さい。
- ・ 同じく、会員、受験者同士でも試験のための連絡はおやめ下さい。特に申し上げるのは、連絡しあっている方は、同じ答えで間違っているのですぐにわかります。
- ・ 問題をよく読んで、一言一言理解した上で、解答して下さい。問題を読み間違えないようお願い致します。ひっかけ問題も出題されています。
- ・ 記入問題については、解答用紙以外に別紙を添付していただいても結構です。
- ・ 受験料は締め切りの1ヶ月前までにお納め下さい。
- ・ 最終提出日は、平成29年10月末日です。

平成28年12月

第1問	討入り後、赤穂浅野家関係者で、現在まで判明している自害した方は何名でしょうか。 ①1名                      ②2名                      ③3名                      ④4名
第2問	元禄事件に興味を持たれてから、この一冊は参考になった、と思われる「忠臣蔵本」がございますでしょうか。ありましたらその書名をお書き下さい。(中央義士会の本以外で)
第3問	現在の日本に、赤穂義士専門研究者がおりましたら、その方のお名前をお書き下さい。(中央義士会以外の方)
第4問	寺坂逃亡説を唱えた著名な方が、江戸時代から現代まで三名おります。その三名の名前を書いて下さい。
第5問	大石内蔵助の実子は、何人でしょうか。 ①4人                      ②5人                      ③6人                      ④7人
第6問	「預置候金銀請払帳」が落合与左衛門に渡った実際の日はいつでしょうか。 ①11月29日              ②12月11日              ③12月13日              ④12月14日
第7問	小野寺一族、大高一族が、一族9名が討入ったことを証明する手紙は、現在どこが所蔵しているのでしょうか。 ①東大史料編纂所      ②国会図書館              ③早稲田大学              ④東京国立博物館
第8問	「浅野氏家滅亡之濫觴」の史料は現在どこの図書館が所蔵しているのでしょうか。 ①国会図書館          ②奈良県立図書館      ③東京都中央図書館      ④天理大学図書館
第9問	「浅野氏家滅亡之濫觴」(沾徳随筆)は活字であれば、東京でも全編コピーができます。どこでできますでしょうか。
第10問	大石内蔵助の無二の親友はどなたでしょうか。名前を書いて下さい。
第11問	大石内蔵助が、日本歴史上最も尊敬していた方がいますが、どなたでしょうか。名前を書いて下さい。

第12問	水戸徳川家の家老で、大石内蔵助の親戚がいます。その方の名前を書いて下さい。
第13問	現在、墨田区は旧吉良邸の周りに史跡にまつわる立て札を沢山立てています。何を見てそれらの場所を決めているのでしょうか。
第14問	浅野長直・浅野采女正の屋敷跡には現在何の建物が建っているのでしょうか。
第15問	泉岳寺が霊南坂にあった頃の図を見たことがありますか。 「ある」「なし」でお答え下さい。
第16問	堀内伝右衛門が「浅野内匠頭様御家来御預りの節覚書」以外にも覚書を書いておられます。なんという題名の覚書でしょうか。
第17問	大石内蔵助と親戚（三親等）に当たる方はどなたでしょうか。 ①奥野将監                      ②大野九郎兵衛                      ③藤井又左衛門                      ④安井彦右衛門
第18問	江戸には大工が4人おりました。その4名の方の名前を、苗字だけで結構ですのでお書き下さい。
第19問	衣類どろぼうと間違われた義士がいます。どなたでしょうか。
第20問	「何之益有りや」はどなたの言葉（セリフ）でしょうか。
第21問	あなたは近年のテレビ歴史番組をご覧になられてどのように感じますか。 ①実に面白い                      ②実にくだらしない                      ③参考にはなる                      ④社会的実害になる
第22問	月光院（きよ）は浅野家に仕えたことがあるのでしょうか。正しいものを選んで下さい。 ①ない    ②ある    ③浅野家へ使えたのは義理の姉    ④浅野家へ使えたのは妹
第23問	仙桂尼の確認できるお寺が二ヶ所あります。その寺名を書いて下さい。

第24問	「梶川氏日記」を正確に把握している書物がありましたら、その書名を書いて下さい。
第25問	討入りに大工道具を持参したことは、何の史料に書かれているでしょうか。その史料名を書いて下さい。
第26問	寺坂逃亡論者によると、38歳で討入りして、83歳で亡くなるまで、関係者を欺き通したことになっております。あなたは、このような学者をどのように思いますか。 ①曲学阿世である                      ②このような学者に論考を頼む方がおかしい ③学者の主張するとおり                ④百日の諸説屁一つであった
第27問	寺坂逃亡論について正しいと思うものを選んで下さい。 ①現代の歴史学者はその程度である                ②学者の手前一度発表したら押し通す ③全ての勉学分野において最低の分野である    ④全て学者の主張は正しい
第28問	討入り出発後、「米屋五兵衛」の店を見に来た方々がおります。案内した人と、案内された人を1名ずつ書いて下さい。
第29問	結局、切腹で終わった大石内蔵助の行動をあなたはどう判断しますか。 ①喧嘩                      ②殉死                      ③仇討ち                      ④爆発
第30問	討入り時、四十七士は鎖の帯を腰に巻いておりましたが、どなたの提案だったのでしょうか。

- なるべく期限ギリギリまで努力してご提出下さい。
- 答えが不明の問題もございます。その場合、不明もしくは不知と書いて下さい。
- 文章で答える問題はなるべく短く簡潔にお答え下さい。解答にならない分かりきっていることは書かないのがコツです。
- 採点が△印の場合もありますが、その場合は△が2つで1問正解とします。
- 中央義士会の過去の出版物でも誤記はありますので充分確認の上、解答して下さい。

#### 本誌に関わった編集者

中島康夫（企画・編集・検証）    荻原 栄（編集・校正）  
 富岡 克（校正）    三輪三郎（校正）    中西 勉（校正）  
 (株)正大印刷社（印刷）



## 今期中に出版された「忠臣蔵」関係新刊本

書名	編著者	発行所	価格
歌川国芳 ー奇と笑いの木版画	府中市美術館編	東京美術	2,592円
武士はなぜ腹を切るのか	山本博文著	幻冬舎	1,080円
江戸城 ー築城と造営の全貌ー	野中和夫著	同成社	19,440円
江戸の経済事件簿 ー地獄の沙汰も金次第ー	赤坂治績著	集英社(集英社新書)	800円
江戸のしかけ絵本 ー立版古とおもちゃ絵ー	佐久間保明監修	グラフィック社	2,160円
永遠の忠臣蔵	山口 翔著	双里出版	1,587円
忠臣蔵映画と日本人 ー〈雪〉と〈桜〉の美学ー	小松 宰著	森話社	2,592円
女魔術師	岡本綺堂著	光文社(光文社時代小説文庫)	712円
週刊 ビジュアル 江戸三百藩 第6号	ハーパーコリンズ・ジャパン編	ハーパーコリンズ・ジャパン	600円
木簡研究 第37号	木簡学会編	木簡学会	5,000円
上方落語 ー流行唄の時代ー	荻田 清著	和泉書院	3,672円
花の忠臣蔵	野口武彦著	講談社	2,376円
ぎやまん物語	北原亜以子著	文藝春秋(文春文庫)	702円
歴史通 2016年1月号	ワック出版編	ワック出版	890円
東横歌舞伎の時代	上村以和於著	雄山閣	3,240円
はだれ雪	葉室 麟著	角川書店	1,944円
ART BOX 豆判春画 ー和気満堂コレクションー	浅野秀剛監修・文	講談社	2,484円
国芳イズム ー歌川国芳とその系脈ー	練馬区立美術館編	青幻舎	2,700円
赤穂の文化 研究紀要第8号	赤穂市文化とみどり財団編	赤穂市文化とみどり財団	700円 (送料別)
日本名城画集成	荻原一青画、西ヶ谷恭弘文	小学館	3,024円
銅像歴史散歩	墨 威宏著	筑摩書房(ちくま新書)	1,036円
任侠忠臣蔵 おとこにて候	伊吹 昭著	風詠社	1,296円
あかんやつら ー東映京都撮影所血風録ー	春日太一著	文藝春秋(文春文庫)	1,102円
バンカル No.100 2016年夏号 ー播磨事典 上ー	姫路市文化国際交流財団編	神戸新聞総合出版センター	740円
俳諧忠臣蔵	三輪三郎	NPO法人忠臣蔵倶楽部	1,400円

- ・市販されていない著書もございます。
- ・一部、再版の冊子も載せております。
- ・その他、ほんの一部だけ元禄事件を扱っている出版物で除外している著書もございます。
- ・この一年間で、この他に出版された忠臣蔵物、あるいは元禄事件関係の書物をご存じの方は、ご教授下さい。
- ・本頁に関して、赤穂市教育委員会生涯学習課小野真一氏の協力を得ました。

## 古書販売目録（平成28年）第108回 平成28年12月

全国義士会連合会

No	書名	著者	出版年	売価	出版社
1	近世武家思想（赤穂義人録）	石井柴郎	昭和49年	1,400	岩波書店
2	赤穂義士実纂 筐付き	斉藤茂	昭和50	15,000	中央義士会
3	江戸の町（上）（下） 2巻	内藤昌	昭58	1,800	草思社
4	大石内蔵助ら切腹の地	中島康夫	平23	1,000	中央義士会
5	江戸古地図散歩	池波正太郎	平成6年	800	平凡社
6	現代新国語辞典	金田一春彦	平成14年	1,000	学研
7	正史赤穂義士	渡辺世祐	昭46	1,500	光和堂
8	忠臣蔵 カラー文庫	河竹登志夫	昭42	500	講談社
9	赤穂騒動・影の軍師	木村紉也	平成8年	900	叢文社
10	しんげき忠臣蔵	福田善之	昭和45年	600	三一書房
11	四十七人の刺客（ハード）	池宮彰一郎	平成6年	900	新潮社
12	忠臣蔵傑作選	縄田一男	昭和61年	400	旺文社
13	堀田家三代記	堀田正久	昭和60年	900	新潮社
14	赤穂四十六士論 ラクガキ有り	田原嗣郎	平成18年	900	吉川弘文館
15	赤穂浪士・物語日本史	稲垣史生	昭和41年	300	学研
16	続日本随筆大成（3）	森銚三	昭54年	500	吉川弘文館
17	元禄赤穂事件	編集部	平成11年	800	学研
18	赤穂義人纂書（一）のみ	鍋田晶山	昭50年	1,800	日本シエル
19	小説 山鹿語類	松波治郎	昭19年	500	安土書房
20	コンサイス日本地名事典（美）	谷岡武雄	平成10年	900	三省堂
21	忠臣蔵と四谷怪談	鶴見俊輔	昭和58年	500	朝日選書
22	元禄赤穂事件	編集部	平成10年	900	成美堂出版
23	大石良雄（前）（続）（後）	塚原渋柿	明41年	3,000	隆文館
24	江戸の夢・忠臣蔵と武玉川	森田誠吾	平9年	800	新潮社
25	仮名手本忠臣蔵・近世の部	資料課	平14年	1,000	国立劇場
26	仮名手本忠臣蔵・芸談抄	資料課	平18年	1,200	国立劇場
27	仮名手本忠臣蔵・五段目・六段目	資料課	平14年	1,000	国立劇場

28	仮名手本忠臣蔵・近代の部	資料課	昭61年	1,000	国立劇場
29	仮名手本忠臣蔵・近世の部	資料課	昭59年	1,200	国立劇場
30	仮名手本忠臣蔵・文楽公演	資料課	平14年	1,500	国立劇場
31	仮名手本忠臣蔵・曾根崎心中	資料課	平16年	1,500	国立劇場
32	仮名手本忠臣蔵・通し狂言	資料課	平14年	1,500	国立劇場
33	図説・歴史散歩事典	井上光貞	昭和55年	700	山川出版社
34	時を超えて語るもの・写真集	史料編纂所	平成13年	1,000	東京大学
35	続日本随筆大成・寒檠瓊綴	浅野梅堂	昭54年	1,000	吉川弘文館
36	江戸武家事典 ハード	稲垣史生	昭50年	1,200	青蛙房
37	江戸史跡考証事典	稲垣史生	昭49年	2,500	新人物往来社
38	赤穂城断絶	高田宏治	昭53年	500	経済界
39	おれの足音	池波正太郎	昭46年	500	文藝春秋社
40	江戸生活事典 ハード	稲垣史生	昭38年	900	青蛙房
41	演劇界・忠臣蔵特輯	編集部	昭22年	900	日本演劇社
42	城郭と城下町・赤穂城	相賀徹夫	昭62年	900	小学館
43	江戸城障壁画の下絵	国立博物館	昭62年	1,000	国立博物館
44	歴史読本・忠臣蔵の真実	編集部	平成6年	500	新人物往来社
45	実録四十七士	編集部	平成6年	600	学研
46	江戸の町を歩いてみる	斉藤慎一	平成14年	800	中央公論
47	四十七士	大町芳衛	明43年	3,000	弘学館
48	ビジュアル江戸時代 ラクガキ有	山本博文	平成18年	1,200	小学館
49	大石神社蔵・大石家義士文書	佐々木杜太郎	昭57	3,000	新人物往来社
50	赤穂義士 筐入り	三田村鳶魚	昭33	600	青蛙房
51	誠忠画鑑・画集	鳥居言人	昭14	8,000	省文社
52	港区近代沿革図集 ・三田 芝浦	三田図書館	昭46	1,000	港区
53	港区近代沿革図集 ・赤坂 青山	三田図書館	昭46	1,000	港区
54	泉岳寺・赤穂義士記念館目録	小坂義尚	平14年	2,000	泉岳寺
55	浮世絵・忠臣蔵の世界	中右瑛	平10年	1,500	里文出版
56	江戸東京年表 1590年～1993年	吉原健一郎	平成5年	1,500	小学館

57	日本家紋総覧 コンパクト版	能坂敏雄	平成6年	2,000	新人物往来社
58	滅びゆくものの美	平尾孤城	昭48年	1,500	三交社
59	忠臣蔵百科	泉秀樹	平成10年	980	講談社
60	東京の中の江戸・義士史蹟あり	長谷章久	昭55年	640	角川選書
61	新編忠臣蔵	吉川英治	昭17年	1,000	春陽堂
62	忠臣蔵史蹟事典	中央義士会	平成20年	2,500	中央義士会
63	赤穂義士の引揚げ (マンガ版)	中島康夫	平成22年	700	中央義士会
64	大石内蔵助ら切腹の地	中島康夫	平23年	1,000	中央義士会
65	大石頼母助の系譜 とくに浅野梅堂	中島康夫	平24年	1,000	中央義士会
66	新大石内蔵助の生涯	中島康夫	平26年	1,800	忠臣蔵倶楽部
67	元禄赤穂事件の記録(易水連袂録)	中島康夫	平27年	2,200	忠臣蔵倶楽部
68	俳諧忠臣蔵	三輪三郎	平28年	1,400	忠臣蔵倶楽部

## ご注文方法

- ・ご注文は、FAXで、本の番号と書名を記入の上、お名前、送本先の郵便番号、住所、電話、FAX番号をご記入の上、FAX 048-973-3790 へお送り下さい。
- ・注文決定と代金のご連絡をFAXいたします。ご注文が重複した場合は、先に注文された方のものとなりますので、お早めにご注文下さい。
- ・注文された本は、勉強会の場で(H29年1月15日など)お渡しいたします。その時に本代をお支払い下さい。
- ・勉強会に来られない方は、必ず、その旨ご連絡下さい。本代は当方の指示に従ってお振込下さい。
- ・本代の振り込みは下記宛てにお願いいたします。郵便局の払込票でお願いいたします。振込費用はご負担いただいております。払込票の通信欄に書名をお書き下さい。62～68は新刊です。

中央義士会 00130-0-54568

## 全国義士会連合会

1. 赤穂義士会	〒678-0233 兵庫県赤穂市加里屋中州3-56 赤穂市史編集室内	電話 0791-43-6848
2. 赤穂義士顕彰会	〒678-0235 兵庫県赤穂市上飯屋129 大石神社内	電話 0791-42-2054
3. 京都山科義士会	〒607-8308 京都府京都市山科区西野山桜ノ馬場町116 大石神社内	電話 075-581-5645
4. 京都義士会	〒606-8352 京都府京都市左京区仁王門通東大路東入ル 北門前町 本妙寺内	電話 075-771-2244
5. 大阪義士会	〒543-0074 大阪市天王寺区六万休町1-20 吉祥寺内	電話 06-6771-4451
6. 北海道義士会	〒073-0106 北海道砂川市空知太444の1 北泉岳寺内	電話 0125-53-3513
7. 笠間義士会	〒309-1611 茨城県笠間市笠間323 真浄寺内	電話 0296-72-0090
8. NPO法人 忠臣蔵倶楽部	〒135-0047 東京都江東区富岡1-17-1-403	電話 03-3630-1927
9. 中央義士会	〒104-0052 東京都中央区月島3-15-9	電話 048-973-3777